



三事研広報 No.2

H22.9.7 発行

三重県公立小中学校事務研究会

発行者 河村 尚紀
編集責任者 池山 勝利

暦の上ではすでに秋ですが、残暑厳しい今日この頃です。皆様はいかがお過ごしでしょうか。学校では運動会の準備など、屋外での作業をされることもあるかとは思いますが、くれぐれも熱中症にかからないよう、こまめに水分の補給をされるなど、体調管理にお気をつけください。

全国事務研（徳島大会）

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」という大会テーマのもと7月28～30日の3日間、徳島県徳島市内において第42回全国公立小中学校事務研究大会が行われました。学校と家庭・地域をつなぎ、子どもの輝く笑顔と成長のため、学校事務組織のあり方や、事務職員の担うべき新たな役割を考えて共有していくことを目的に1日目に全体会、2日目に7分科会の研究提案、3日目はまとめの会と有意義な3日間でした。

☆徳島大会広報はこちらから・・http://www.kenjiken-tokushima.jp/zenkoku_2010/



徳島県立産業環境交流センター

《全体会》

文部科学省の行政説明があり、「標準法の改定」に伴う来年度の概算要求の内容について、学校マネジメントについて、子ども手当のあり方について、説明がありました。全体研究会では、5地域の実践報告（共同実施について）があり、参加者全員で考えながら、藤原文雄先生の講評を聞きました。三重県からは中村優さんの報告もあり、全国の中で三重県の共同実施がどのような位置にあるのか、あらためて確認できた時間でした。昼食時には徳島県内の小学生と保護者による「阿波踊り」が披露されました。



三重からの報告

《分科会》

私は、第3分科会（愛媛県支部）に参加しました。共同実施をすすめる中、自分たちの経営目標について評価をし、課題解決していこうという提案でした。分科会参加者もどのように評価しているのかを実際体験しました。その後、小グループに分かれて共同実施についての情報交換をし、他県の方たちと交流しました。その中で、私たちが常に最優先に考えなければならないことは、「子どもたち」であるということを確認しました。子どもたちのために私たちは何をすべきかは、全国各地どこでも共通する（使命である）ことを考えさせられた分科会でした。



阿波踊りのアトラクション

《まとめの会》

前日の7分科会の報告及び記念講演がありました。記念講演は、(株)いんどり横石社長による「人は誰でも主役になれる」でした。横石氏が会社を立ち上げ、高齢者の町「上勝町」を活気のある「上勝町」に変身させてきた話でした。料理の主役を引き立たせている「葉っぱ（つまもの）」を地域ぐるみで生産し、全国へ出荷していく。始めは、誰からも相手にされなかったが、得意先の料理店、上勝町のおばあちゃんたち……一人ひとりと理解を得ながら今では地域の方々がそれを仕事にして生き生きと生活している。「私は、おばあちゃんたちがどうしたら主役になれるかプロデュースしているだけです」と話された言葉がとても印象的でした。これは学校現場等にも言えることではないでしょうか。組織のリーダーにおいて、リーダーシップをとることより、組織のメンバーの良さをどのように生かしていくか、リーダーが一人ひとりをどのようにプロデュースしていくかを問われているように感じました。実に感動的でとてもあたたかい講演でした。この3日間、全国の状況を知ると共に学校事務職員のミッション（使命）とは何かと考えさせられました。とても充実した3日間でした。（1日目、2日目ともお弁当がとてもおいしかったことにも感動！！）（情報部 岩瀬）

第2回研修講座

8月5日（木）鈴鹿市文化会館・けやきホールで、第2回研修講座を開催しました。
ご参加いただきました会員の皆様、厳しい暑さの中、お疲れさまでした。
講座（午前の部）は、パネルディスカッションにて、意見交換を行いました。

パネラーの（右手前より）福島さん、小阪さん、山下さん、竹尾さん



三事研 研究部より

三事研では教育活動の活性化に向けて、今年度は二つのとりくみを進めています。

- 1、教育現場のナマの姿を観て、感じ、課題を把握すること。
- 2、学校財務の視点で学校教育を運営すること。

今回は「授業を観る」という一つの手段をきっかけに、授業づくりのために私たち学校事務職員に何ができるのか、意見交換しました。

パネリストからは次のような意見が述べられました。

- ・実務を成立させた、その後のステップに、授業を観るというような「(直接的)教育活動へのかかわり」があるのではないかと。
- ・一時間にかかる業務内容の捉え方については、事務職員の職務に対して発想や意識の転換が必要となるかもしれない。
- ・現場を知る手段は他にもあるのではないかと。教師からの要望をどう引き出し、学校経営方針に照らしながらどう判断するかを大事にしたい。
- ・実際に授業や研修会に参加して確かに気づきがあった。
- ・よりよい授業づくりのために、創造性を大切にする教師と合理性を大切にする事務職員が協働する組織を作ることが必要である。
- ・子どもたちを育てる現場に勤務する職員として、同じ目的を持っているという職場の風土づくりが大事である。今年度の目標を「学校の教師力、授業力、教材力をあげること」と宣言している。
- ・単に備品購入の事務処理だけでなく、購入後の教室での活用を見届けることも私たちの仕事であるという思いから、職員向けにお宝紹介（手作り教材備品の紹介）をしている。

助言者である織田泰幸先生からは次のようなお話をいただきました。

- ・学校事務職員は、授業の単なる「観測者」から、授業のための「知識保持者」や「共同創造者」への発想の転換が必要ではないだろうか。授業で活用できる環境整備を行うことで、教師の方から「授業に協力してくれませんか」と言ってもらえるような取り組みを行ってはどうか。授業づくりへの「参加のしかた」を考えていくと良いのではないかと。

今回は、研修主題実現に向けてのとりくみ1についての話が中心となりました。

とりくみ2については、今後、織田泰幸先生を再びお迎えし、続きのお話を聴ける機会を持ちたいと思います。

講座（午後の部）は、災害ボランティアネットワーク鈴鹿理事長 南部美智代さんに、「向こう三軒両隣 みんなで助け合うために」 森本メンタルクリニック 院長 森本義典さんに「身近で起こるメンタルヘルス問題、その理解と対処」をテーマに、それぞれご講演いただきました。

南部さんには行政とNPOの違いや、気持ち一つの置きどころの大切さを教わりました。森本さんにはメンタルヘルスの基礎知識や、新しいタイプのうつ病についての対処方法などを学びました。



森本義典さんの講演

研究大会のご案内

第47回 三重県公立小中学校学校事務研究大会

平成22年10月21日（木） 受付開始 9:30～（終了予定 16:30） 三重県総合文化センター

全体会 三重県文化会館 中ホール

分科会

第1分科会 亀山支部提案 学校事務の効率化を進め、学校の教育業務を支援する
～亀山モデルの共同実施を目指して～ 三重県男女共同参画センター
多目的ホール

第2分科会 鈴鹿支部提案 鈴鹿の共同実施の実践と展望

―本格実施から5年間のあゆみ― 三重県文化会館 小ホール

皆様のご参加を
お待ちしております。

